

プラネット

持続可能な物流を構築するシステム
主要メーカー・卸売業の間で導入進む

プラネットは、物流上の課題解決のサポートとして「ロジスティクスEDI」を推進している。ロジスティクスEDIは、物流に関する各種データをメーカー・卸売業間で交換することで、より向きと輸配送事業者の業務効率化を図り、業界が抱える課題を解消するのを目指している。

2020年には、ASN（事前出荷情報）として利用可能な「出荷予定データ」をリリースしており、納品日、納品ケース数、入数など多様な項目

を含むことができる。現状、卸売業の物流拠点に商品が届く際、トラックに積まれている商品数や商品の消費期限などの情報は納品後にしか確認ができず、トラックの待ち時間が伸びる一因となっている。「出荷予定データ」により納品に関する事前情報が詳細に提供されることで、ドライバーの待機時間短縮だけでなく、卸売



業務効率化に向けた活用イメージ

業の納品業務の効率化も実現する。実証実験では、何下ろしの作業時間が約4割短縮されたという結果が出ている。このように、ロジスティクスEDIの活用により、荷卸しや検品の効率化、ドライバーの待ち時間削減、労働環境改善などが期待される。

現在、日用品・化粧品業界に対してもデータ活用可能な物流体制の構築を

業界を中心に、主要なメーカー・卸売業の間でロジスティクスEDIの活用が進んでいる。今後、果カス削減目標などの背景から、物流業務の効率化が一層重視されている。『出荷予定データ』の活用は、物流における「データ活用」が重要な要素となることができ、企業にたいしてもデータ活用可能な物流体制の構築を表現する（同社）

方針だ。

「近年、人手不足や物流コストの増加、温室効果ガス削減目標などの背景から、物流業務の効率化が一層重視されている。『出荷予定データ』の活用は、物流における「データ活用」が重要な要素となることができ、企業にたいしてもデータ活用可能な物流体制の構築を表現する（同社）